

令和4年度第1回香川県国民健康保険運営協議会 会議録

1 日 時 令和4年9月9日(金) 13:30～14:45

2 場 所 香川県庁本館 12階 大会議室

3 方 法 ウェブ会議

4 委員の出席状況

[出席委員9名] 有馬委員、木村委員、久米川委員、小島委員、近藤委員、田中委員、
豊嶋委員、平野幸代委員、松尾委員(会長)

[欠席委員2名] 高岡委員、平野珠恵委員

5 事務局出席者

健康福祉部 三好部長

医務国保課 近藤課長、福家室長、岡野室長補佐、佐々木室長補佐、川東副主幹、
岡本主任

6 傍聴者 なし

7 議事内容

各議題の審議等について

議題1 令和3年度国民健康保険事業特別会計決算について

事務局から、議題1について、説明を行った。

【主な意見、質疑等】

(委 員) 資料1の1ページの「1人当たり診療費」と、資料2の3ページ「1人当たり医療費」
の違いは何か。

(事 務 局) 診療費は、医療機関の内科・歯科の入院、入院外に要した費用の全額で、医療
費は、診療費以外にマッサージ等の療養費等を含めた医療費全体の総額です。

(委 員) 診療費と医療費に分けるのはわかりにくいので、医療費に統一した方がよいので
はないか。

(事 務 局) 国保では、事業年報(厚生労働省統計)において診療費と医療費を区分している
ため、このような説明になります。

(委 員) 1人当たり診療費に療養費は入っていないということだが、療養費はいくらか。

(事 務 局) 改めて資料を作成して、ご説明する。

(委 員) 保険給付費等交付金の不用額が大きいのが、新型コロナウイルス感染症の影響で、
診療控えがあるのか。

(事 務 局) 保険給付費等交付金の不用額については、医療費の急激な増加に備えて予算
計上したが、医療費の伸びが予想より小さかったために不用額となったものである。

(委 員) 新型コロナウイルス感染症の診療費は、どのくらい含まれているのか。

(事 務 局) 令和3年度のレセプトについては、現在分析を行っている。令和2年度のレセプ
トについては、調査を行ったが、あまり数字としては出てこなかった。

令和3年度の結果については、次回ご報告する。

議題2 香川県内市町国保の運営状況について

事務局から、議題2について、説明を行った。

【主な意見、質疑等】

- (委員) 1人当たり医療費は増加しているにもかかわらず、財政状況は良くなり、一般会計からの法定外繰入金が減少しているのはなぜか。
- (事務局) 1人当たりの医療費は増えているが、医療費総額は減少傾向にある。被保険者数の減少と保険料収納率向上により財政状況も若干改善しているのではないか。
- (会長) 保険料率の改定の影響もあるかもしれない。

議題3 県における今年度の取組みについて

事務局から、議題3について、説明を行った。

【主な意見、質疑等】

- (委員) 糖尿病重症化予防について、医療費適正化の啓発チラシに掲載しているが、糖尿病が何%減ったら、国保の運営状況がどのくらい良くなるか等の試算はしているか。啓発チラシを作るのが本当に効果的なのか。
- (事務局) 病状に応じて治療費は異なるため、試算するのは難しい。治療中断等が無いよう、皆さんに意識を持っていただくためにチラシでお知らせしている。効果の検証につきましては、今後十分検討する。
- (委員) チラシは、県の広報誌に入れているのか。
- (事務局) 県の広報誌を配布時に、一緒に挟み込んで、ポストに投函している。
- (委員) 国民健康保険法の改正に伴って、保険料率の統一の方針を国が示していたと思うが、香川県の方向を確認したい。
- (事務局) 保険料率の統一については、県の運営方針で、年齢調整後の医療費水準等の市町間の格差が縮小した時点で検討することとしている。
- ただ、全国の状況や国の動向に鑑みて、将来的には保険料水準の統一の必要があること、年齢調整後の医療費指数や保険料の収納率について、市町間の格差も少しずつ縮小傾向にあることから、各市町と課題を整理しながら保険料水準の統一を検討している。
- (委員) 格差の検証を毎年度するのか、決まった年度にするのかについて、運営方針の中に謳われているのか。
- (事務局) 今の運営方針が令和5年度までとなっており、令和6年度からの次期運営方針を今後策定する中で議論していくことになる。
- (会長) 運営方針の中で、一定程度方向性を決めておいた方がよいのではないかというご質問だと思う。新国保になってからある程度年数が経っているので、検証が必要だというご指摘ではないか。これは単なる意見ですが。

議題4 その他

事務局から、参考資料 5 について説明を行った。

【主な意見、質疑等】

- (委員) (香川県人口の年齢構成の推移について委員作成の資料を画面共有)
団塊の世代が75歳を迎え、今後国保の被保険者数は減少するが、2035年から2036年には第2世代が前期高齢者になる。年齢構成の先行きを見た国保運営の議論をしておかなければいけない。
- (会長) 国民全体の人口の動向と、国保の対象者の年齢構成とは、若干違うところがあると思いますが、いずれにしても、増減についての検討を十分しておかないといけないというのはご指摘の通りだと思う。
- (委員) 国保新聞に高額医療費負担金の削減という記事があった。将来的に、高額医療費負担金が廃止の方向で検討されているのか。
- (事務局) 被保険者への補助が無くなるのではなく、高額医療費負担金という制度において、国から保険者に負担金として交付する額を縮小しようとする議論が、財務省で行われている。今後の推移を注視していく。